

千葉市感染症発生動向調査情報

2023年 第38週 (9/18-9/24) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	定点	38週	37週	36週	35週	
上段: 患者数 下段: 定点当たりの報告数 「定点当たりの報告数」とは 報告数/報告定点数	小児科	18	18	18	18	*正式名称は インフルエンザ/COVID-19定点
	眼科	5	5	5	5	
	*インフル/COVID	28	28	28	28	
	基幹	1	1	1	1	

定点	感染症名	注意報	千		葉		市		千葉県
			9/18-9/24	9/11-9/17	9/4-9/10	8/28-9/3	9/11-9/17		
			38週	37週	36週	35週	37週		
小児科	RSウイルス感染症		4	2	0	2	10		
	咽頭結膜熱		6	11	8	7	149		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		16	27	36	18	256		
	感染性胃腸炎	↓	80	92	92	105	457		
	水痘		0	0	1	1	9		
	手足口病	◎	36	24	22	21	174		
	伝染性紅斑		0	0	0	1	1		
	突発性発しん		6	5	5	7	26		
	ヘルパンギーナ		0	15	10	11	55		
	流行性耳下腺炎		1	1	0	1	5		
*インフル/COVID	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓	269	334	272	151	2907		
	新型コロナウイルス感染症	↓↓	229	410	744	552	4798		
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0		
	流行性角結膜炎		0	3	5	2	32		
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0		
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0		
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0		
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0		

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

「流行中」 流行発生警報開始基準値以上

「やや流行中」 流行発生注意報基準値以上、又は流行発生警報開始基準値を下回った後に流行発生警報終息基準値以上

2 全数報告対象疾患: 5 例

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	50歳代	病原体等の検出	クロイツフェルト・ヤコブ病	女性	50歳代	脳波の周期性同期性放電等
腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出
					男性	60歳代	

・第38週は、結核1例(76)、腸管出血性大腸菌感染症1例(21)、クロイツフェルト・ヤコブ病1例(3)、梅毒2例(54)の発生届があった。

※ ()内は2023年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第38週のコメント

<感染性胃腸炎>

前週よりやや減少し4.44となった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。年齢階級別の報告数は2歳で最多。区別では、若葉区(16.50)が最多で1歳及び3歳の報告が最も多かった。

<手足口病>

前週より増加し2.00となった。過去10年の同時期と比べると少なめだが、第33週から連続して増加している。年齢階級別の報告数は1歳で最多。区別では稲毛区(3.33)が最多で1歳の報告が最も多かった。

<インフルエンザ>

前週よりやや減少し9.61となり、流行発生注意報基準値(10.0)を下回った。過去10年の同時期と比べると最多のまま。年齢階級別の報告数は10-14歳で最多で、10歳未満では7歳で最多。区別では中央区(16.40)で流行発生注意報基準値を上回り最多で15-19歳の報告が最も多かった。他に稲毛区(13.75)及び若葉区(11.75)で流行発生注意報基準値を上回った。

<新型コロナウイルス感染症>

前週より減少し8.18となった。年齢階級別の報告数は10-14歳で最多。区別では、中央区(20.80)からの報告が最多で40歳代の報告が最も多かった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

- ・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2023.pdf>

- ・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2023.pdf

■ トピック ■

<結核>

厚生労働省は、毎年9月24日から30日までを「結核予防週間」として、結核予防に関する普及啓発などを行っています。

結核は、今でも年間10,000人以上の新しい患者が発生し、1,600人以上が命を落としている日本の主要な感染症です。2022年に、新たに結核患者として登録された者の数(新登録結核患者数)は10,235人で、前年より1,284人(11.1%)減少しています。

結核り患率(新登録結核患者数を人口10万対率で表したものは)前年より1.0ポイント減少して8.2となり、前年に引き続き、り患率10.0未満とする結核低まん延国の水準を達成していますが、新登録患者数及び、り患率の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられ、今後の動向を注視していく必要があります。

2023年第37週時点の全国の届出累積数は9,937例で、過去10年の同時期と比べると最少となっています。都道府県別では、東京都が1,418例と最も多く、次いで大阪府738例、愛知県711例の順となっています。千葉県は525例で全国で6番目の多さとなっています。

千葉市では第38週に1例の発生届があり、2023年第38週の届出累積数は76例となり、2022年までの過去5年の同時期(2018年128例、2019年133例、2020年110例、2021年101例、2022年110例)と比べると、最少となっています。(図1)。

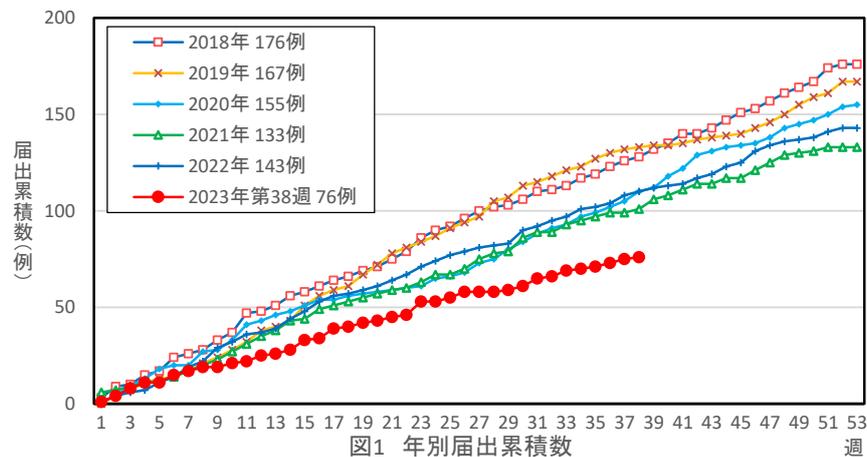


図1 年別届出累積数 (2018年第1週-2023年第38週 n=850)

76例中、男性39例(51.3%)、女性37例(48.7%)であり、年代別では80歳代が最も多く(18例、23.7%)、次いで70歳代(16例、21.1%)、60歳代(10例、13.2%)の順となっており、60歳以上で全体の64.5%を占めています(図2)。類型別では、患者が50例(65.8%)、無症状病原体保有者が26例(34.2%)となっており、患者50例中、肺結核患者(その他の結核との合併を含む)が38例(76.0%)、その他の結核患者が12例(24.0%)となっています。

2018年第1週から2023年第38週まで850例の届出があり、類型別では肺結核患者（その他の結核との合併を含む）が440例（51.8%）、その他の結核が134例（15.8%）、疑似症患者が2例（0.2%）、無症状病原体保有者が274例（32.2%）となっています。年別では、全届出数のうち肺結核患者の占める割合は2018年から2020年までほぼ横ばいであり、2021年、2022年は前年より減少しました（図3）。

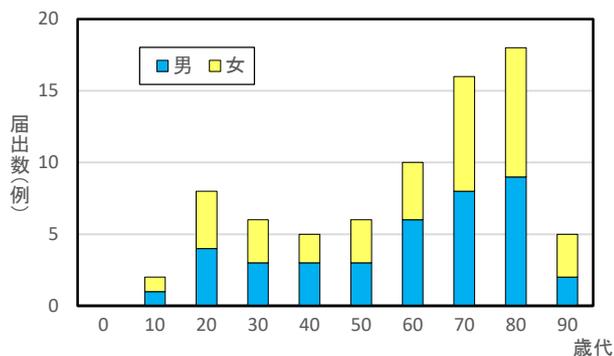


図2 性別・年代別（2023年第1週-第38週 n=76）

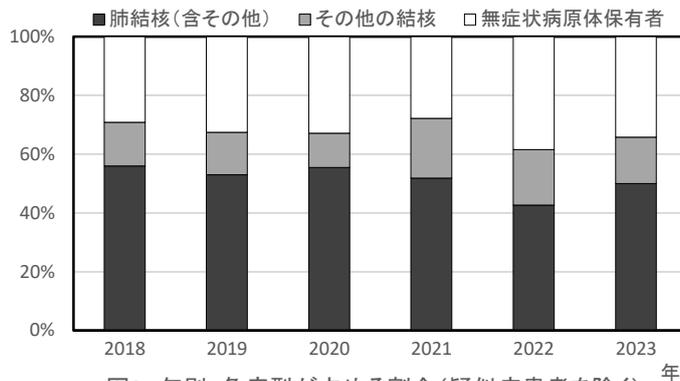


図3 年別・各病型が占める割合（疑似症患者を除く）
2018年第1週-2023年第36週 n=850

肺結核患者440例中、60歳以上は294例（66.8%）であり、年別では2020以降増加しており、2021年（69例中49例、71.0%）と2022年（61例中43例、70.5%）は70%以上となり増加傾向となっています。無症状病原体保有者274例中、20歳以下は53例（19.3%）、60歳以上は83例（30.3%）であり、20歳以下は2022年までほぼ20%以下で一定していることに対して、60歳以上は2020年以降増加しています（表1及び表2）。

表1 肺結核患者届出数における年代別届出数

	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年第38週時点		合計	
	届出数	割合	届出数	割合	届出数	割合								
0歳代	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10歳代	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%
20歳代	7	7.1%	14	15.9%	3	3.5%	4	5.8%	5	8.2%	3	7.9%	36	8.2%
30歳代	5	5.1%	6	6.8%	5	5.8%	3	4.3%	3	4.9%	2	5.3%	24	5.5%
40歳代	9	9.2%	12	13.6%	8	9.3%	6	8.7%	5	8.2%	1	2.6%	41	9.3%
50歳代	13	13.3%	7	8.0%	12	14.0%	6	8.7%	5	8.2%	0	0.0%	43	9.8%
60歳代	12	12.2%	14	15.9%	9	10.5%	10	14.5%	9	14.8%	7	18.4%	61	13.9%
70歳代	18	18.4%	12	13.6%	19	22.1%	18	26.1%	17	27.9%	9	23.7%	93	21.1%
80歳代	26	26.5%	15	17.0%	25	29.1%	13	18.8%	11	18.0%	12	31.6%	102	23.2%
90歳代	7	7.1%	8	9.1%	5	5.8%	8	11.6%	6	9.8%	4	10.5%	38	8.6%
合計	98	100%	88	100%	86	100%	69	100%	61	100%	38	100%	440	100%

表2 無症状病原体保有者届出数における年代別届出数

	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年第38週時点		合計	
	届出数	割合	届出数	割合	届出数	割合								
0歳代	3	6%	4	7%	3	6%	5	14%	2	4%	0	0%	17	6%
10歳代	1	2.0%	4	7.4%	2	3.9%	0	0%	0	0%	2	7.7%	9	3.3%
20歳代	5	9.8%	4	7.4%	4	7.8%	2	5.4%	8	14.5%	4	15.4%	27	9.9%
30歳代	9	17.6%	7	13.0%	7	13.7%	3	8.1%	4	7.3%	3	11.5%	33	12.0%
40歳代	9	17.6%	9	16.7%	6	11.8%	12	32.4%	7	12.7%	2	7.7%	45	16.4%
50歳代	9	17.6%	12	22.2%	14	27.5%	4	10.8%	16	29.1%	5	19.2%	60	21.9%
60歳代	9	17.6%	8	14.8%	9	17.6%	5	13.5%	6	10.9%	3	11.5%	40	14.6%
70歳代	4	7.8%	5	9.3%	4	7.8%	4	10.8%	6	10.9%	4	15.4%	27	9.9%
80歳代	2	3.9%	1	1.9%	2	3.9%	1	2.7%	4	7.3%	2	7.7%	12	4.4%
90歳代	0	0%	0	0%	0	0%	1	2.7%	2	3.6%	1	3.8%	4	1.5%
合計	51	100%	54	100%	51	100%	37	100%	55	100%	26	100%	274	100%

結核の症状は、長引く咳、たん、微熱、体のだるさなどが挙げられますが、特徴的なものがなく、初期には目立たないことが多いため、特に高齢者では気づかないうちに進行してしまうことがあります。結核が進行すると咳やくしゃみによって周りの人への感染リスクが高くなることから、早期発見・早期治療が重要となります。以下の症状が出る場合は結核を疑って、早めに医療機関を受診しましょう。

- ・咳やたんが2週間以上続く
- ・倦怠感が長く続く
- ・発熱が長引く
- ・急に体重が減る
- ・食欲がない

また、職場や市で実施している定期健康診断で胸部エックス線検査を受けましょう。65歳以上の方は、結核検診を兼ねた市の肺がん検診が無料で受診できます。

乳幼児は感染すると重症化する恐れがあります。BCG接種を受けましょう。市では4か月児健診に合わせて行っています。